

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200376		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホームえがおの里浜北		
所在地	静岡県浜松市浜北区中条1102		
自己評価作成日	令和 3年 8月 1日	評価結果市町村受理日	令和3年11月17日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の基本理念と施設理念「感謝、尊敬、共感」を念頭に、入居者様一人一人の意志を尊重し、入居者様のペースで生活できるように、常に寄り添う介護を心掛けています。入居者様の健康状態に配慮しつつ出来る家事やレクリエーションを職員と一緒に、家庭的な雰囲気の中、認知症進行防止と体力維持に取り組んでおります、また入居者様の「好き」を大切に、いつも笑顔の絶えない楽しい環境づくりを目指しています。床続きのユニットの特性を生かし入居者様の交流が行われ活気のある生活が出来ています。7月より新しい管理者となりましたが、今まで以上に施設全体が一体となり、寄り添う介護が出来るように努力していきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2297200376-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2297200376-00&ServiceCd=320&Type=search)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 9月 24日		

事業所理念のもと、「利用者・家族・職員すべてが家族」という思いで、月1回のホームミーティングにて情報共有を図り、2ユニット全職員が利用者18人全員のケアに当たっている。身体拘束・感染症・環境・防災の4委員会を設置し、委員会活動や職員研修を行い、職員のスキルアップを図っている。平屋の建物は、ユニットの中央に事務所があり、職員は全体を見渡すことができる。コロナ禍により地域との交流はできないが、小学生の登校時の集合場所として広い駐車場を提供するなど、地域との関係継続を心掛けている。利用者ごとに担当職員を決め、毎月「身体状況のお知らせ」を報告し、玄関での窓越し面会の実施など、家族との情報共有・関係継続に努めている。新型コロナ感染症対策として、定期的な消毒・換気に努め、清潔な居住空間・環境作りを心掛けている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念と事業所理念はミーティング時に唱和し理念を意識して業務に取り組めるようにしている。玄関にも掲示し来訪者にも共有できるようにしている。	ホームの理念を事務所内に掲示し、常に職員が確認できるようにしている。管理者は、朝礼や月1回のホームミーティングを活用して、情報共有を図りながら理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年行われていた地域の祭りや総合防災訓練がコロナ感染予防で中止となっているが散歩時に挨拶を交わしたり施設の樹木の虫取りに来た子供たちと交流している。施設の駐車場前が小学校へ通学する児童の集合場所となっており窓越しではあるが交流している。	コロナ禍により交流機会は制限されているが、運営推進会議等の報告を通して、自治会との連絡を密に取ることを心掛けている。小学生の集合場所として駐車場を提供するなど、地域とのつながりを大切に考え、関係の継続を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の集まりが無いが書面や電話での相談や質問はいつでも受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症対策の為、2ヶ月に1回の開催が出来ておらず書面開催とさせて頂いていただいている。書面にて施設の行事の様子や近況を報告し返信用紙にコメントをいただいている。	コロナ禍により書面開催として、2か月に1回開催している。年間予定を年度当初に連絡し、市や地域包括支援センター職員、自治会長・民生委員へ事業所の近況報告を送り、電話・FAXにより意見を求めている。運営推進会議の内容は、ホーム会議にて職員との情報共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課や地域包括支援センターには運営推進の書面開催の資料を通して施設の状況や課題を報告し返信用書面にてご意見をいただいている。	運営推進会議の年間計画を年度当初に連絡し、運営推進会議開催時には、書面にて事業所の近況報告を行い、メール・FAXにて意見交換を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げている。身体拘束、虐待防止について職員全員が正しい知識を得られるようにミーティングで学んでいる。玄関は早朝、夜間を除き自由に入出入り出来るようになっている。	「身体拘束ゼロ」を掲げ、運営規約や重要事項説明書に記載し、利用者・家族に対し入居時に説明している。身体拘束委員会担当委員を中心に、「身体拘束等適正化検討委員会」を2か月に1回開催するとともに、勉強会を行っている。勉強会に参加した職員は、報告書を提出し、全員で身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。	

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から虐待になるような言動や行動等は直接指導したりミーティングで話し合う機会を設け、職員間でも声を掛け合うことができる環境づくりを目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用されている方もおり、ご意見を聞いたりご相談をさせていただいている。また、資料を基にミーティングで研修を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居者様、ご家族様に対し十分な説明を行い、不安な点や疑問点にはその都度説明を行い納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関に施設情報やご意見箱を用意している。来訪時や電話連絡時に積極的にご意見を伺うようにしている。	新型コロナ感染防止を図りながら、1日3組30分限定で玄関での窓越し面会を行っている。家族面会時には様子や要望を聞き取り、都度「介護日誌・特記事項」を活用して、職員同士が情報を共有する仕組みができています。	コロナ禍により面会機会が制限されている状況の中、窓越し面会は実施しているが、オンライン面会など、家族の要望にあわせた多様な対応を検討することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のホームミーティングになるべく全員が出席し、それぞれの意見や提案を反映出来るように努めている。	月1回ホームミーティング(時間外に実施)では、職員同士の意見交換・勉強会を行い、参加者は必ず報告書を提出し、「ホーム会議のまとめ」にて情報を共有している。事業所は、法人事務局と同一建物内にあるため、管理者は常に意見交換できる状況である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働意欲の向上を目指し、資格手当、残業手当を支給している、一定期間の就労で昇給を行っている。事前に希望休を申請すれば休みが取れるなど働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際の把握に努め、能力に応じた指導を行っている。今年度は感染予防のため、外部研修への参加は控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症対策の為、交流ができていない。電話やメールで情報交換をしたいと考えている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントでご本人様のご意志やご意向を可能な限り確認し入居後に安心して生活出来るように支援している。入居後の情報は職員一人ひとりに確実に伝わり、連携できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の施設見学や電話相談でご家族様が困っていること、不安なこと、要望等の情報を収集し安心して入居できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様のご意向を確認し現時点で必要な支援を検討している。他のサービスが必要な場合は費用面も含め検討していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の「できる」を大切にしながら日々の生活の中で家事や簡単なできる作業行い、できない作業を職員とともにやり、協力し合える環境を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の情報は常にご家族様と共有できるように密に連絡を取るようになっている。何かあればご相談をさせていただき、ご協力をお願いさせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍で面会を中止させていただいているが、電話連絡や手紙を出すなど馴染みの人や場所との関係が途切れさせない方法を検討している。	コロナ禍により面会は制限しているが、2か月に1回の訪問美容の利用や、電話や手紙(年賀状)を利用するなど、関係継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの個性を尊重しながら、なるべく気の合う方と一緒に活動出来るように席替えやテーブルの配置を考えている。お互いの得意な分野を生かせるように支援している。ユニット間を行き来しながら交流を深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでに得た信頼関係を大切に、入院や転居される入居者様に対し、ご本人様、ご家族様にとって最善の方法と一緒に考えるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや暮らし方を尊重し、日々の支援を通じて思いをつかみ、その人らしく生活できるように努めている。	入居前の情報や利用者・家族の希望や意向を聴き取り、日々の活動の支援につなげている。利用者ごとに担当職員を決め、「身体状況のお知らせ」にて毎月報告し、都度、意向の把握に努めている。職員は、ホームミーティングにて利用者全員について話し合い、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴、既往歴、性格、能力等の情報収集を行い、職員に周知しホームでその人らしく生活出来ているか担当者会議で情報共有している。入居直後は特に不安にならないように注意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日々のご様子を記録し職員同士で共有できるようにしている。できた作業、できなかった作業を把握してカンファレンスにて話し合い、介護計画に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時にサービス担当者会議を開催し、それぞれの専門的な意見を多く取り入れながら計画書を作成している。作成した計画書はご本人様、ご家族様に、ご説明し、同意を得て署名をいただいている。	利用者ごとに担当職員を決め、月1回のカンファレンスでは、担当職員を中心に利用者・家族の意向を報告し、報告に基づき意見交換を行っている。アセスメント要約表を活用して職員全員で情報を共有し、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、健康チェック表、排泄チェック表を活用し職員間で情報を共有出来るようにしている。個々のケアについては個人シートを確認し、行ったケアを介護記録に記入している。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様が必要とされているニーズの把握に努め、専門家の意見を取り入れ、適切な外部サービスが提供できるような対応を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染防止の観点から地域の活動への参加や受け入れは自粛させていたが、運営推進会議の書面開催にて施設の状況を伝えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様全員が月2回施設提携医から往診を受け、ご本人様とコミュニケーションを取りながら適切な医療が受けられるように支援している。緊急時も含め24時間体制で対応が可能。往診時に薬剤師が同行し適切な処方ができるようにしている。	インターネットツールを活用し、月2回の定期往診や他科受診(家族対応)の状況、緊急時の対応、処置の指示について、医師・看護師と逐次情報共有を図りながら対応している。月2回の歯科往診や薬剤師とも連携して、適切に対応する仕組みを整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師にて入居者様の健康チェックを行っている。訪問時には日常の様子を報告、相談しながら適切な処置を受ける事が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様入院時にはすぐに情報提供を行い安心して治療が受けれるようにしている。病院関係者と連携しながら早期に退院出来るように情報交換や相談を密にしている。退院時はその後のケアの方法や医療との連携についてご家族様含め話し合い方向性を考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化した場合の対応に関する指針」のご説明と読み合わせをしている。入居者様の体調変化時にはご家族、医師、施設で話し合う場を設け、施設で出来る限りの支援を看取りも視野に入れながら考えている。	「重度化した場合の対応に係る指針」及びマニュアルを整備し、入居時に利用者・家族に説明している。利用者の体調変化時には、医師・家族と話し合いを行い、利用者・家族の意向を確認しながら、看取りも含めた対応を整えて支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時にマニュアルに沿った対応が出来るようにしている。ホームミーティングにて入居者様の体調や身体状況について話し合い、急変や事故発生時の初期対応に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には施設の災害対応マニュアルに沿って行動するように職員に周知している。防火管理者の指導の元、年2回の防災訓練を実施し、災害時の手順の把握に努めている。職員緊急連絡網を作成し、災害発生時に周知出来るようにしている。	コロナ禍により、地域と連携した訓練は実施できなかったが、防災委員会委員を中心に、緊急連絡網を整え、マニュアルに沿って災害時の対応手順を確認し、年2回火災を想定した避難訓練・夜間想定訓練を行っている。備蓄品として、水・食料、発電機を備えている。	災害時における事業所の緊急体制と復旧対応の検討・整備が求められている中、備蓄されている発電機の試用を含めて、台風等による停電を想定した訓練実施の検討を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、排泄介助や入浴介助時は羞恥心やプライバシーに配慮した声掛けや介助をするように心掛けている。	運営規程・重要事項説明書に規定し、新人研修時だけでなく、ホームミーティングで定期的な研修を行っている。管理者は都度注意を心掛け、職員は常に人格の尊重とプライバシーに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	盲段から入居者様ご自身の意見や意思を職員に伝えやすい信頼関係や雰囲気作りを心掛けている。意思表示に対してはご本人様が可能な限り自己決定出来るように働きかけている。ご自身の思いを伝えるのが困難な入居者様は表情や行動などで察するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様がその人らしく生活できるように常に入居者様主体のケアを心掛けている。入居者様のペースで生活できるように意向があれば食事や入浴などの時間を調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の訪問美容でカットをしている。訪問時、入居者様のご要望が美容師に伝えられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者様と一緒に野菜の皮むきや刻み、盛り付けを行い食後は食器洗いや食器拭きを一緒に行っている。食事前にメニューを伝え、食事が楽しみになるような配慮をしている。	献立・食材は業者から提供され、職員が手作りしている。食事前に献立を伝え、下ごしらえや盛り付け等の手伝いをしてもらうことで、食事に興味を持ち楽しく食べることができるよう工夫を心掛けている。行事食として、流しそうめんやおやつ作りを試みている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の嚥下状態を栄養士と相談しながら食事形態を嚥下状態に合わせている。状態を確認し必要であれば食事介助支援を行っている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行っている。自力で出来ない方はスポンジブラシや歯ブラシで介助でケアをしている。月2回の歯科往診にて口腔内の状態を診ていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて入居者様の排泄パターンを把握し適宜声掛けをしている。声掛けの際は自尊心や羞恥心に配慮した声掛けを行い、自立排泄が出来るように支援している。	「排尿・排便チェック表」を利用して、利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声掛けをしている。夜間ポータブルトイレ利用者も、日中は可能な限りトイレを利用できるよう、声掛けのタイミングに留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表を用いて食事量や水分量を確認しながら医師と相談し服薬による排便コントロールをしている。必要に応じて牛乳、ヨーグルトなどの乳製品を本人様の好みに合わせて提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を用いすべての入居者様が週2回の入浴が出来るように確認しながら入浴の声掛けをしている。入浴の拒否があった場合は記録に残し本人様が心地よく入れるタイミングを共有できるようにしている。	入浴チェック表を基に、週2～3回午前・午後、その日の状況、利用者の希望や体調に合わせた入浴を支援している。声掛けの工夫をして、利用者個々の希望・体調に合わせた柔軟な対応を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣に沿って就寝時間や起床時間はある程度自由にいただいている。就寝前は皆さんでテレビ鑑賞しながらゆっくり過ごしている。日中も希望されれば自由に休んでいただいているが適宜声掛けしてメリハリをつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は鍵付きの個人用収納を使用し、薬剤師が管理している。誤薬事故防止の為、職員はポケット付のシートにお一人様ずつセットし、セット後、服薬前、服薬後にチェックシートを用いて確認している。入居者様のお薬の追加や変更は連絡ノートにて周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様それぞれの能力に合った作業やレクリエーション活動を提供している。作業後は感謝を伝えて共に喜びを感じ、遣り甲斐を持って頂くようにしている。月ごとに職員が交代でイベントを企画し楽しんでいただいている。		



静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナウイルス感染症対策の為、外出を中止しております。ホームのエントランスで外気浴をしたり、ホーム周辺の散歩のみとしています。	コロナ禍により、ドライブ等の外出は実施できていないが、できる限り事業所周りの散歩や外気浴を行うように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の物は出来るだけ一緒に買い物に行って選んでいただきたいが、現在は新型コロナウイルス感染症対策の為外出を中止している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様より電話やお手紙のご希望があった時は、ご家族様と連絡を取れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の温度差が少なくなるように冷暖房の温度調整をしている。毎日清掃、消毒を行い、清潔で心地よく過ごして頂くように心掛けている。	平屋造りで天井が高く、事務所を中心に2ユニットが並び、自由に行き来ができる。利用者の作品や花を飾り、季節感を大切にしている。職員は、感染症委員会や環境委員会が中心となり、事業所内の清掃・消毒・換気等の感染対策を徹底し、清潔で心地よい環境作りに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファは全ての入居者様が自由に利用できるようになっている。希望されるお好きな場所で過ごす事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は使い慣れたものを持ち込んでいただくことができ、写真や小物等を飾り、本人様にとって落ち着いて生活出来る空間になるようにしている。	エアコン・クローゼットを備えた居室は、使い慣れた家具を持ち込み、家族の写真や小物を飾り、入居前の暮らしぶりに合わせて生活できるように対応している。定期的な換気を行い、消毒等の感染対策を心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は段差が無く、廊下には手すりを設置しているので安全に自立歩行できます。トイレや浴室の入口に表札を設置して迷わないようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200376		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホームえがおの里浜北		
所在地	静岡県浜松市浜北区中条1102		
自己評価作成日	令和 3年 8月 1日	評価結果市町村受理日	令和3年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2297200376-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2297200376-00&ServiceCd=320&Type=search)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 9月 24日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の基本理念と施設理念「感謝、尊敬、共感」を念頭に、入居者様一人一人の意志を尊重し、入居者様のペースで生活できるように、常に寄り添う介護を心掛けています。入居者様の健康状態に配慮しつつ出来る家事やレクリエーションを職員と一緒に、家庭的な雰囲気の中、認知症進行防止と体力維持に取り組んでおります、また入居者様の「好き」を大切に、いつも笑顔の絶えない楽しい環境づくりを目指しています。床続きのユニットの特性を生かし入居者様の交流が行われ活気のある生活が出来ています。7月より新しい管理者となりましたが、今まで以上に施設全体が一体となり、寄り添う介護が出来るように努力していきます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)の記入欄は空欄です。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念と事業所理念はミーティング時に唱和し理念を意識して業務に取り組めるようにしている。玄関にも掲示し来訪者にも共有できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年行われていた地域の祭りや総合防災訓練がコロナ感染予防で中止となっているが散歩時に挨拶を交わしたり施設の樹木の虫取りに来た子供たちと交流している。施設の駐車場前が小学校へ通学する児童の集合場所となっており窓越しではあるが交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の集まりが無いが書面や電話での相談や質問はいつでも受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症対策の為、2ヶ月に1回の開催が出来ておらず書面開催とさせていただいている。書面にて施設の行事の様子や近況を報告し返信用紙にコメントをいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課や地域包括支援センターには運営推進会議の書面開催の資料を通して施設の状況や課題を報告し返信用書面にてご意見をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げている。身体拘束、虐待防止について職員全員が正しい知識を得られるようにミーティングで学んでいる。玄関は早朝、夜間を除き自由に出入り出来るようになっている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から虐待になるような言動や行動等は直接指導したりミーティングで話し合う機会を設け、職員間でも声を掛け合うことができる環境づくりを目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用されている方もおり、ご意見を聞いたりご相談をさせていただいている。また、資料を基にミーティングで研修を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居者様、ご家族様に対し十分な説明を行い、不安な点や疑問点にはその都度説明を行い納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関に施設情報やご意見箱を用意している。来訪時や電話連絡時に積極的にご意見を伺うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のホームミーティングになるべく全員が出席し、それぞれの意見や提案を反映出来るように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働意欲の向上を目指し、資格手当、残業手当を支給している、一定期間の就労で昇給を行っている。事前に希望休を申請すれば休みが取れるなど働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際の把握に努め、能力に応じた指導を行っている。今年度は感染予防のため、外部研修への参加は控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症対策の為、交流ができていない。電話やメールで情報交換をしたいと考えている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントでご本人様のご意志やご意向を可能な限り確認し入居後に安心して生活出来るように支援している。入居後の情報は職員一人ひとりに確実に伝わり、連携できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の施設見学や電話相談でご家族様が困っていること、不安なこと、要望等の情報を収集し安心して入居できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様のご意向を確認し現時点で必要な支援を検討している。他のサービスが必要な場合は費用面も含め検討していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の「できる」を大切にしながら日々の生活の中で家事や簡単なできる作業行い、できない作業を職員とともにやり、協力し合える環境を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の情報は常にご家族様と共有できるように密に連絡を取るようになっている。何かあればご相談をさせていただき、ご協力をお願いさせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍で面会を中止させていただいているが、電話連絡や手紙を出すなど馴染みの人や場所との関係が途切れさせない方法を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々の役割を大切に、協力し合い家事やレクが出来るようにしている。お互いの得意な分野を生かせる支援を心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでに得た信頼関係を大切に、入院や転居される入居者様に対し、ご本人様、ご家族様にとって最善の方法と一緒に考えるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや暮らし方を尊重し、日々の支援を通じて思いをつかみ、その人らしく生活できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴、既往歴、性格、能力等の情報収集を行い、職員に周知しホームでその人らしく生活出来ているか担当者会議で情報共有している。入居直後は特に不安にならないように注意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の個々の生活リズムを記録し、状態の変化(ADL)等が無いか観察し記録をするように心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時にサービス担当者会議を開催し、それぞれの専門的な意見を多く取り入れながら計画書を作成している。作成した計画書はご本人様、ご家族様に、ご説明し、同意を得て署名をいただいている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、健康チェック表、排泄チェック表を活用し職員間で情報を共有出来るようにしている。個々のケアについては個人シートを確認し、行ったケアを介護記録に記入している。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様が必要とされているニーズの把握に努め、専門家の意見を取り入れ、適切な外部サービスが提供できるような対応を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染防止の観点から地域の活動への参加や受け入れは自粛させていただいているが、運営推進会議の書面開催にて施設の状況を伝えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様全員が月2回施設提携医から往診を受け、ご本人様とコミュニケーションを取りながら適切な医療を受けられるように支援している。緊急時も含め24時間体制で対応が可能。往診時に薬剤師が同席し適切な処方ができるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師にて入居者様の健康チェックを行っている。訪問時には日常の様子を報告、相談しながら適切な処置を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様入院時にはすぐに情報提供を行い安心して治療を受けられるようにしている。病院関係者と連携しながら早期に退院出来るように情報交換や相談を密にしている。退院時はその後のケアの方法や医療との連携についてご家族様含め話し合い方向性を考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」のご説明と読み合わせをしている。入居者様の体調変化時にはご家族、医師、施設で話し合う場を設け、施設で出来る限りの支援を看取りも視野に入れながら考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時にマニュアルに沿った対応が出来るようにしている。ホームミーティングにて入居者様の体調や身体状況について話し合い、急変や事故発生時の初期対応に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には施設の災害対応マニュアルに沿って行動するように職員に周知している。防火管理者の指導の元、年2回の防災訓練を実施し、災害時の手順の把握に努めている。職員緊急連絡網を作成し、災害発生時に周知出来るようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、排泄介助や入浴介助時は羞恥心やプライバシーに配慮した声掛けや介助をするように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを伝える事が出来ない入居者様に対しては表情、行動を見て感じ取る事が出来るように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様がその人らしく生活できるように常に入居者様主体のケアを心掛けている。入居者様のペースで生活できるように意向があれば食事や入浴などの時間を調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の訪問美容でカットをしている。訪問時、入居者様のご要望が美容師に伝えられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや盛り付けを職員と入居者様と共に行っている。食事前の口腔体操時に本日のメニューを伝えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の嚥下状態を栄養士と相談しながら食事形態を嚥下状態に合わせている。状態を確認し必要であれば食事介助支援を行っている。		



静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行っている。自力で出来ない方はスポンジブラシや歯ブラシで介助でケアをしている。月2回の歯科往診にて口腔内の状態を診ていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて入居者様の排泄パターンを把握し適宜声掛けをしている。声掛けの際は自尊心や羞恥心に配慮した声掛けを行い、自立排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表を用いて食事量や水分量を確認しながら医師と相談し服薬による排便コントロールをしている。必要に応じて牛乳、ヨーグルトなどの乳製品を本人様の好みに合わせて提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を用いすべての入居者様が週2回の入浴が出来るように確認しながら入浴の声掛けをしている。入浴の拒否があった場合は記録に残し本人様が心地よく入れるタイミングを共有できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣に沿って就寝時間や起床時間はある程度自由にさせていただいている。就寝前は皆さんでテレビ鑑賞しながらゆっくり過ごしている。日中も希望されれば自由に休んでいただいているが適宜声掛けしてメリハリをつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は鍵付きの個人用収納を使用し、薬剤師が管理している。誤薬事故防止の為、職員はポケット付のシートにお一人様ずつセットし、セット後、服薬前、服薬後にチェックシートを用いて確認している。入居者様のお薬の追加や変更は連絡ノートにて周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様それぞれの能力に合った作業やレクリエーション活動を提供している。作業後は感謝を伝えて共に喜びを感じ、遣り甲斐を持って頂くようにしている。月ごとに職員が交代でイベントを企画し楽しんでいただいている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナウイルス感染症対策の為、外出を中止しております。ホームのエントランスで外気浴をしたり、ホーム周辺の散歩のみとしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の物は出来るだけ一緒に買い物に行って選んでいただきたいが、現在は新型コロナウイルス感染症対策の為外出を中止している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様より電話やお手紙のご希望があった時は、ご家族様と連絡を取れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の温度差が少なくなるように冷暖房の温度調整をしている。毎日清掃、消毒を行い、清潔で心地よく過ごして頂けるように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファは全ての入居者様が自由に利用できるようになっている。希望されるお好きな場所で過ごす事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は使い慣れたものを持ち込んでいただくことができ、写真や小物等を飾り、本人様に取って落ち着いて生活出来る空間になるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は段差が無く、廊下には手すりを設置しているので安全に自立歩行できます。トイレや浴室の入口に表札を設置して迷わないようにしている。		